



# 信号ない横断歩道 停止車両は15.7%

# 進まぬ歩行者優先

## JAF再び九州最下位 8月調査

歩行者が信号機のない横断歩道を渡ろうとする際に一時停止する車は15.7%。日本自動車連盟（JAF）が8月に実施した調査で、大分県は8割超のドライバーが法を守っていないかった。前年の15.0%からわずかに改善されたものの、九州最下位だった。県内は今年、信号機のない横断歩道で3件（20日時点）の死亡事故が起きており、県警は「ルールの順守を」と訴えている。

道交法は横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるにもかかわらず、ドライバーが一時停止しない行為を「横断歩行者妨害」として禁止している。

調査は8月12、26日、全



信号機のない交差点を通過する車両。高齢男性は横断歩道の前で車列が途絶えるのを待っていた＝21日夕、大分市舞鶴町、撮影・中谷悠人

都道府県で2カ所ずつ実施した。いずれも中央線のある片側1車線で、交通量が毎分3〜8台の道路。午前10時から午後4時にかけて、JAF職員が横断歩道を渡るそぶりを1カ所当たり50回試みた。場所は非公表。全国で9434台のうち2014台（21.3%）が停止した。前年から4.2ポイント上昇。トップは長野の72.4%、最下位は宮城の5.7%だった。

大分県内は18日に調査し、34位。九州・沖縄では沖縄の18.0%を下回り、最も低かった。「本来は100%であるべき」とJAF大分支部。都道府県別の結果の公表が始まった2018年以降、3年連続で全国平均に届かなかった。九州ワーストの理由について、県警幹部は「分からない。歩行者に気付いてくても急ブレーキを踏みたくなくて、そのまま通行するケースが多い」と説明する。

県警はラグビーワールドカップ（19年）や東京五輪・パラリンピック（21年）をにらみ、横断歩行者妨害の取り締まりを強化してきた。19年の摘発は1122件（前年比30.9件増）。今年も9月末までに825件に上る。

一方、悲惨な事故は後を絶たない。3月17日夜、由布市湯布院町川上の県道で信号機のない横断歩道を渡っていた6歳男児が車にはねられた。男児は胸を強く打って亡くなった。

5月は別府市浜脇の県道でシニアカーに乗った80代男性、7月には竹田市会々の県道で80代女性がそれぞれ車にはねられて命を落とした。

県警交通指導課は「横断歩道は歩行者の聖域。事故を起こしたドライバーの過失責任は重くなる」と指摘。横断歩道が50%以上あることを知らせる「イヤマーク（◇）」を見た、横断者の有無を必ず確認するように求める。

奥田貴光・交通事故事件捜査統括官（46）は「交通指導と取り締まりをさらに強化し、ルールを浸透させると話している。」（羽山直平）

● 県内の交通事故 (大分県警調べ)

	20日	本年累計	前年同期
件数	4	1797	2344
死亡	0	33	36
負傷	4	2237	2943

歩行者が信号機のない横断歩道を渡ろうとしている際に一時停止する車の割合を調べた調査で、大分県は8割超えのドライバーが法を守っていませんでした。

- ① 道交法は横断歩道を渡ろうとする歩行者がいるにもかかわらず、ドライバーが一時停止しない行為を何と規定して禁止していますか？
- ② 大分県内で一時停止した車は何%で、全国と九州では何番目でしたか？
- ③ 全国では何%の車が停止しましたか？また、トップと最下位の県はどこで、それぞれ何%でしたか？
- ④ 横断歩道でのドライバーの過失責任について県警交通指導課は何と指摘し、ドライバーに何を求めていますか？